

学位論文審査の結果及び最終試験の結果の要旨

学位申請者氏名	岩本 弥恵	
学位論文名	パノラマX線写真による総頸動脈の石灰化所見と骨粗鬆症既往歴および骨折との関係 (Osteoporosis, osteoporotic fractures, and carotid artery calcification detected on panoramic radiographs in Japanese men and women)	
論文審査委員	主査：	松本歯科大学 教授 小林 泰浩 (印)
	副査：	松本歯科大学 教授 中村 浩彰 (印)
	副査：	松本歯科大学 教授 山本 昭夫 (印)
	副査：	(印)
	副査：	(印)
	副査：	(印)
最終試験	実施年月日	2015年12月14日
	試験方法	<input type="checkbox"/> 口答 ・ <input type="checkbox"/> 筆答
学位論文の要旨		
<p>近年の研究により、骨粗鬆症と動脈硬化症との関係が解明されつつある。本研究ではパノラマX線写真をもとに総頸動脈の石灰化と骨粗鬆症診断歴および骨粗鬆症性骨折歴との関係を調査した。研究対象は、松本歯科大学病院を受診しパノラマX線写真を撮影した患者のうち同意の得られた40歳以上の男女1021名（男性371名、女性650名）である。既往歴と生活習慣病についてアンケート調査を行った。パノラマX線写真を精査し、総頸動脈の石灰化の有無を判定した。総頸動脈の石灰化と骨粗鬆症診断歴ならびに骨折歴との関係を二項ロジスティック回帰分析にて評価した。さらに、総頸動脈石灰化所見による骨粗鬆症診断歴と骨折歴のスクリーニング能力は Receiver Operating Characteristics (ROC)解析にて評価した。総頸動脈の石灰化が、既存骨折のない骨粗鬆症診断歴と有為に関連した。しかし、骨折とは関連しなかった。ROC 曲線下面積は、骨粗鬆症診断歴で 0.54、骨折歴で 0.5 を示した。この結果は、総頸動脈石灰化所見によって、骨粗鬆症リスクおよび骨折歴をスクリーニングすることは困難であることを示唆した。歯科を受診した患者の集団において、総頸動脈の石灰化と既存骨折のない骨粗鬆症診断との関連を世界で初めて示した。欧米人と比べ、日本人は無症候性椎体骨折が多いため、一般住民集団において総頸動脈石灰化所見が骨粗鬆症とどのような関連を有するかを明らかにする必要がある。</p>		
学位論文審査結果の要旨		
<p>本論文はパノラマX線写真をもとに総頸動脈の石灰化と骨粗鬆症診断歴および骨粗鬆症性骨折歴との関係を調査したものである。研究対象は、松本歯科大学病院を受診しパノラマX線写真を撮影した患者のうち同意の得られた40歳以上の男女1021名（男性371名、女性650名）である。既往歴と生活習慣病についてアンケート調査を行った。パノラマX線写真を精査し、頸動脈の石灰化の有無を判定した。頸動脈の石灰化と骨粗鬆症診断歴ならびに骨折歴との関係を二項ロジスティック回帰分析にて評価した。さらに、総頸動脈石灰化所見による骨粗鬆症診断歴と骨折歴のスクリーニング能力は Receiver Operating Characteristics (ROC)解析にて評価した。総頸動脈の石灰化が、既存骨折のない骨粗鬆症診断歴と有為に関連した。しかし、骨折とは関連しなかった。ROC 曲線下面積は、骨粗鬆症診断歴で 0.54、骨折歴で 0.5 を示した。この結果は、総頸動脈石灰化所見によって、骨粗鬆症リスクおよび</p>		

(様式第 13 号)

<p>骨折歴をスクリーニングすることは困難であることを示唆した。歯科を受診した患者の集団において、総頸動脈の石灰化と既存骨折のない骨粗鬆症診断との関連を世界で初めて示した。</p> <p>本論文は、その手法ならびに得られた結果から導いた考察と結論が適切である。</p> <p>且つ、パノラマX線写真での総頸動脈石灰化の有無の判定が骨粗鬆症診断歴に関係することを示した意義ある臨床研究で、学位論文に値すると評価した。</p>	
<p>最終試験結果の要旨</p> <p>申請者の学位論文を中心に、研究に関する基礎知識、論文の内容に関わる事柄および研究成果の今後の展開について、口答による試験を行った。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 総頸動脈石灰化と骨粗鬆症との関連性の判定とスクリーニング能力との関係について2. 骨粗鬆症以外、動脈硬化に関連する因子はなにか？3. 陽性尤度比について4. ROC 解析について5. ロジスティック回帰分析について6. 今後どのように本研究を発展させるか？ <p>申請者は、文献的知識を踏まえて、上記の質問に適切に回答した。その説明は論理的で説得力のあるものであった。申請者は臨床研究の方法、統計学的解析方法を習得しており、博士課程修了者として十分な見識を有していると判断した。</p> <p>以上により、本審査会は本申請者が博士（歯学）として十分な学力および見識を有するものと認定し、最終試験を合格と判定した。</p>	
判 定 結 果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 ・ <input type="checkbox"/> 不合格

備考

- 1 学位論文名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を（ ）を付して記入すること。
- 2 学位論文名が日本語で表示されている場合には、英語訳を（ ）を付して記入すること。
- 3 論文審査委員名の前に、所属機関・職名を記入すること。